

集中山行

奥秩父 真ノ沢

日程:2008年6月7(土)~8(日)

メンバー:L釣、奥平、白土(記)

天気にも恵まれ、奥秩父独特の苔むした沢を楽しむことができた。全パーティーともほぼ予定通り集中でき、個人山行にはない達成感があった。

行程:

6/7(土) 毛木平 7:00~8:50 十文字峠 10:00~12:50 真ノ沢出合~16:10 千丈の滝下~16:30 ビバーク地

6/8(日) ビバーク地 7:05~7:20 木賊沢出合~8:45 三宝沢出合~10:20 荒川源流標~11:20 甲武信小屋 12:35~12:50 甲武信ヶ岳~16:00 毛木平

1/25000 地形図:居倉、中津峡、金峰山、雁坂峠

6/7(土)

私が登山を始めたころ毛木平から甲武信ヶ岳を縦走したことがある。自分の古い記録を見てみたら1998年8月とあったのでもう10年も前になる。このときは甲武信小屋に泊まったのだが、夜に釜ノ沢遡行のビデオ上映があったのをよく覚えている。田部重治の足跡をたどるという内容であったが、ここで初めて沢登りという登山スタイルを知り、いつか自分も沢を登ってみたいという強い憧れが芽生えたことが今でも強く印象に残っている。あれから10年が経過したが、自分がここまで登山にのめり込むとは、当時は考えてもいなかった

だろう。今回の山行中にはこのようなことを思い出しながら歩いていた。

前泊した毛木平は車が50台ほどは駐車できる立派な登山口だ。テーブルのない大きなあずまやにテントを張って寝た。島田さんも我々と一緒にここまで来たが、十文字峠までピストンして日帰りでバスで帰るといので、我々よりずいぶん早く出発していった。朝起きると天気がよい。しゃくなげ目当ての人たちもたくさん来ている。十文字峠までの登りは結構急登だった。寝不足のためか、3人ともしゃきっとしない。十文字峠で昼寝をすることにした。昼寝して1時間後に股の沢林道を下り始めた。ほとんど歩いている人はいないみたいで登山道は荒れている。真ノ沢出合まで3時間かかった。足ごしらえをして真ノ沢を遡行開始する。通らずにガイドブック通り大きく巻いた。先行者の足跡があったが、これは単独の釣師のものであった。釣師に出合ったところで我々はまず休憩をして、そのあと追いついたところで抜かせてもらう。沢では他には誰にも会わなかった。武信白岩沢出合の少し下から千丈ノ滝を巻いた。右岸に踏跡があり、これをたどると登山道に出た。登山道から右側に千丈ノ滝がちらっと見えるが、全貌は望めない。巻き終わって沢に下るといいビバーク地がある。予定より下流だがここで泊まることにする。蒔きもたくさんある。夕食は釣さん特製のポトフと、焚き火に入れたサツマイモがとてもおいしかった。焚き火は何度やってもいいものだ。沢登りは日帰りよりも沢で泊まって焚き火をするのがやっぱりいい。

6/8(日)

昨日早く遡行終了した分、今日の行程は長く、集中もしなくてはならないので早めに起きる。朝食は奥平さん担当で、ごはんを炊いて和食をいただいた。歩き始めると水が冷たくなってきた気がする。上流には雪渓がのこっているのだろうと思っていたらやはり出てきた。倒木をよけたり雪渓の上を歩いたりしながら進む。倒木にふかふかの苔が生えているのは奥秩父らしくいて実にいいものだ。明瞭でない真ノ沢林道という古い登山道が沢沿いあるが、ここを歩くとスピードアップになる。結局ザイルを出すことなく源頭部まで来た。集中場所である甲武信小屋まであと30分ぐらいのところ立派な荒川源流標が立っていた。ここまでくれば集中には間に合いそうだ。ここからはヤブ漕ぎもなく樹林帯の雪の上を歩いて、甲武信小屋裏のテン場に出た。すでに釜ノ沢パーティーが到着していた。

他のパーティーは戸渡尾根を下山していったが我々は毛木平に戻るために甲武信ヶ岳に登らなくてはならない。遡行終了と全員集中できた達成感からこの登りはとても足が重い。山頂を越えて雪混じりの滑り易い登山道を下っていくと千曲川源流標があった。今回は源流標巡りのまさに源流遡行だ。ここから毛木平までの下りは傾斜も緩いため、戸渡尾根より膝には優しいかもしれない。

心配された雨も降らず、特にアクシデントもなく集中でき山行を終えることができた。慣れ親しんだこのエリアで天気にも恵まれたので得られた成果かもしれない。